

医師のための鍼灸体験講座 (3)

～鍼灸の適応とその実践～

埼玉医科大学東洋医学科 山口 智

東洋医学系物理療法である鍼治療は機械的刺激、灸治療は温熱的刺激により、生体に様々な反応を引き起こす。主に高位中枢を介し生体の正常化作用に寄与することが演者らの自律神経、脳循環、免疫などを指標とした検討で明らかとなった。

1996年にはWHOが鍼治療における37の適応疾患を議論した。さらに1997年にはNIH(米国国立衛生研究所)の鍼に関する合意形成声明が発表された。その内容は「鍼は術後や薬物療法時の吐き気、嘔吐、および歯科の術後痛に対して有効であり、薬物中毒、脳卒中後のリハビリテーション、頭痛、月経痙攣、テニス肘、線維性筋痛、筋・筋膜性疼痛、変形性関節炎、腰痛、手根管症候群、喘息の治療には補助的ないしは代替的治療法として有用な可能性がある」としている。

2018年にはCochraneより慢性頭痛、緊張型頭痛、術後の嘔気・嘔吐、原発性月経困難症、妊娠中の腰痛・骨盤痛、陣痛軽減などが肯定的な疾患として示されている。

本邦の診療ガイドラインでは、先に述べた疾患以外にがん性疼痛、筋萎縮性側索硬化症の疼痛、認知症の認知機能などが記載されている。このように、疼痛・麻痺性疾患や器質的な異常のない不定愁訴などに概ね効果が期待できるとされている。

本セミナーでは、鍼灸治療を実施するために必要な経穴(ツボ)の取り方や、主な適応症に対する鍼灸治療の実際について講演と実技供覧を実施する。

- ① 経絡・経穴理論に基づく経穴(ツボ)のとり方
- ② 簡易型鍼(円皮鍼)、鍼灸で通常用いられる鍼(毫鍼)、鍼通電療法、電子温灸器の紹介と実践
- ③ 頭痛や脳卒中、顔面神経麻痺などの神経疾患に対する鍼灸治療方法

やまぐち きたる
山口 智

現職

埼玉医科大学 医学部 准教授
東京有明医療大学 客員教授

学歴

1981年：(財)東洋医学技術教育振興財団 東洋医学技術研修センター特別研修課程修了
1992年：埼玉医科大学大学院専攻生課程修了
1995年：博士(医学)

職歴

1981年：(財)東洋医学技術教育振興財団東洋医学技術研修センター 研究員
1988年：筑波大学講師(兼任)
1991年：埼玉医科大学 第二内科 東洋医学部門
2009年：埼玉医科大学 東洋医学センター 講師
2020年：埼玉医科大学 東洋医学科 准教授
現在に至る

学会活動

全日本鍼灸学会代表理事・副会長
第58回全日本鍼灸学会学術大会会長
日本東洋医学系物理療法学会理事・副会長
日本良導絡自律神経学会名誉理事
日本疼痛心身医学会理事
日本東洋医学会代議員・学術教育委員
日本温泉気候物理医学会評議員・学術委員
日本自律神経学会評議員
日本頭痛学会評議員
日本神経治療学会評議員
第15回日本統合医療学会大会副会長

賞罰

2008年：厚生労働大臣表彰
その他関係団体・学会より表彰多数

専門分野

東洋医学、鍼灸医学、自律神経、脳循環、神経・運動器疾患、経絡経穴理論、医学教育、医療連携